

a 実施している

b 実施していない

② 以下のデータベースを病院として導入していますか。(複数回答可)

a MEDLINE (もしくは PubMed へのアクセス)

b UpToDate

c Cochrane Library

d Clinical Evidence

6. 最近、研修医を含めた医師にたいして暴言や暴力を振るう患者や家族が増えているといわれています。

① 患者や家族の暴言や暴力に対して、警察に通報する基準などを取り決めたマニュアルは整備されていますか。

a 整備されている

b 整備されていない

② 研修医に対して、患者や家族の暴言や暴力への対処の仕方についての講習はおこなわれていますか。

a 行われている

b 行われていない

③ 患者や家族の暴言や暴力に対応する専門の職員がいますか。

a 専門の職員がいる

b 専門の職員がいない

④ 救急外来に監視カメラは設置されていますか。

a 設置されている

b 設置されていない

7. 貴施設における研修医の年収をご回答ください。

1年目研修医 平均		万円
-----------	--	----

2年目研修医 平均		万円
-----------	--	----

8. 当日の調査開始時間の予定につきまして、ご回答ください。

3月14日 午後		時開始
----------	--	-----

9. 研究実施日の前日(3月13日)の予定で研究当日の資料(調査票等)を宅急便にて送らせていただく予定です。送付先のご住所と担当者名をご記載ください。

(研究計画書 資料 1)

郵便番号 _____
住所・施設名 _____

担当者名 _____

10. 学会や論文の発表時に著者としてお名前を載せさせていただく方について、論文等に記載する情報をご提供ください。研究へご協力いただいた方 2 名まで記載可能です。論文により、著者数に制限がある場合には、①の著者の方のみタイトルページにお名前を記載いたします。②の著者の方については、タイトルに研究グループ名を記載し、研究グループのメンバーとして Appendix に記載いたします。

① 著者 1

日本語著者名 (漢字) _____
(かな) _____
著者名 (アルファベット) _____

所属施設名(日本語) _____

所属施設名(英語) _____
職名 (日本語) _____
職名 (英語) _____
学位(略語、MD, PhD 等) _____

② 著者 2 (著者 1 と同じ場合は「同上」とご記載ください)

日本語著者名 (漢字) _____
(かな) _____
著者名 (アルファベット) _____

所属施設名(日本語) _____

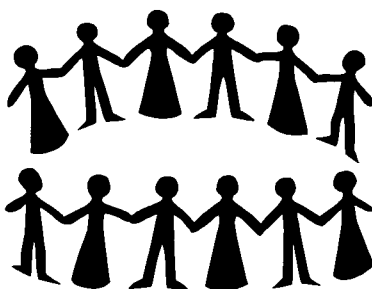
所属施設名(英語) _____
職名 (日本語) _____
職名 (英語) _____
学位(略語、MD, PhD 等) _____

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

厚生労働省 厚生科学研究臨床研究基盤整備事業
「臨床研究フェローシップ構築に関する研究-研修医診療実態調査」
調査実施主体: 京都大学大学院医学研究科 医療疫学
主任研究者 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学
教授 福原 俊一

研究事務局(問い合わせ先)
京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学
担当: 林野泰明
電話: 075-753-4646
ファックス: 075-753-4644
メール: hayasino@pbh.med.kyoto-u.ac.jp

研修医診療実態調査



初期研修医の皆様へ ～アンケート調査のお願い～

このアンケートは、研修医の先生方についての臨床的な背景を調査するためのものです。あなたの回答は、今後の研修内容や研修環境を改善していくための大変貴重な資料となります。調査は無記名で行われますが、あなたの氏名とIDは京都大学に送付されます。調査の結果は京都大学において統計的に処理されますが、個人的な情報、誰がどう回答したかといった個々人の回答内容は京都大学内のみで管理され、施設担当者にもれるようなことは一切ありません。お忙しいところ大変恐縮ですが、最後までご回答下さいますようお願い申し上げます。

《ご記入上の注意点》

- ◆ 回答の中には1つだけ選ぶもの、数値を記入するものなど、答え方が異なる場合があります。質問文をよくお読みになってお答え下さいますよう、お願いいたします。
- ◆ 回答が終わりましたら、もとの封筒に入れて、会場の監督者にお渡し下さいますようお願い致します。

お問い合わせがございましたら、下記までご連絡下さい。

「研修医診療実態調査」研究事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療疫学分野

林野泰明

TEL 075-753-9467

FAX 075-753-4644

1. 年齢、性別、出身大学についてご回答ください。

年齢 _____ 歳	性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性
出身大学 _____			

2. 臨床シナリオのスコアについて、個人的なフィードバックを希望しますか? 「希望します」に✓した場合には、あなたの結果のみがあなた個人にフィードバックされます。フィードバックは各施設の研究責任者を介して行われますが、**個人情報に配慮し、診療シナリオのスコアが個人を特定できる形であなた以外に伝わることはありません。**

- a 希望する
b 希望しない

3. あなたの受けられている研修についておたずねします。

① あなたの研修病院は単独型臨床研修病院ですか、それとも管理型研修病院ですか?

<p>注意)単独型臨床研修病院とは、ほぼ全ての臨床研修プログラム(地域保健・医療等の一部の必修科目を除く)を単独で行う病院のことです。</p> <p>また、管理型研修病院とは、他の病院(協力型臨床研修病院)と共同して臨床研修プログラムを行い、当該臨床研修の管理を行う病院のことです。</p>
--

最も当てはまる選択肢を一つだけ選んで、✓印をつけてください。

- a 単独型臨床研修病院
b 管理型研修病院

② **質問②のみ、上記問で「b 管理型研修病院」と選択された方のみお答えください**

あなたは、内科の研修を、管理型研修病院(所属施設)のみで行いましたか、それとも協力型臨床研修病院で行いましたか? **研修1年目のかたは1年間で実際に研修された施設についてご回答ください。**

下記のa~cのうち、最も当てはまる選択肢を一つだけ選んで、✓印をつけてください。

- a 所属施設のみ
b 所属施設 + 協力型臨床研修病院
c 協力型臨床研修病院のみ

③ **質問③以降は、全員の方がご回答ください**

内科の研修期間は合計して何ヶ月でしたか?管理型研修病院で研修されたかたは、A 管理型研修病院(所属施設)とB 協力型臨床研修病院それぞれについて記載ください。**研修1年目のかたは1年間で実際に研修された施設についてご回答ください。**

合計 _____ヶ月	A 所属施設 _____ヶ月
	B 協力型施設 _____ヶ月

(研究計画書 資料 2)

④ これまでに経験した症例の全症例数について、入院症例、救急外来症例、通常の外来症例に分けて御回答ください。数値はだいたいのもので構いません。記載が無い場合は0例とみなします。

(ア) 入院で主治医として受け持った症例数 _____ 例

(イ) 救急外来での経験症例数 _____ 例

(ウ) 一般の外来での経験症例数 _____ 例

⑤ 研修医になってから現在まで、あなたが直接指導を受けた指導医は全部で何名ですか？おおよその人数を記載してください。

研修医になってから現在までに指導を受けた指導医の数は全部で 名

4. 初期患者の診療についておたずねします。

(ア) あなたの施設では内科系（外傷や熱傷以外で小児科や救急外来を含む）の初診患者の診療について、上級医からの指導を受ける機会がありましたか。公式なプログラムに関わらず、実際に受けたトレーニングの機会についてご回答ください。

- 1 十分にあった
- 2 十分ではないが、それなりにあったが、
- 3 あまりなかった
- 4 まったくなかった

(イ) 上記の初期診療の診察は、どのようなセッティングで行われましたか（複数回答可）

- 1 一般外来
- 2 救急外来

5. 現在のあなたの医療者として必要な基本姿勢・態度についての自己評価について、5つの項目それぞれにつき最も当てはまる選択肢を一つだけ選んで、✓をつけてください。

	できない	ややできない	どちらでもない	まあまあ優れている	優れている
1) 医療に関する基本的な知識の習得	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>
2) 臨床上的の問題点を把握し解決する能力	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>
3) 基本的医療技術の習得	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>
4) 患者とその家族に対する態度	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>
5) チーム医療における協調性	1 <input type="checkbox"/>	2 <input type="checkbox"/>	3 <input type="checkbox"/>	4 <input type="checkbox"/>	5 <input type="checkbox"/>

6. あなたの指導医に関して、自分が指導を受けた全指導医の何パーセントが以下の項目に当てはまるかについて、各項目の最も当てはまる選択肢を一つだけ選んで、✓印をつけてください。例えば、指導を受けた指導医が10人存在し、そのうちの3名が当てはまる場合には、30%となります。

	20%未満	20%～40%	40%～60%	60%～80%	80%以上
1) よりよい学習環境を提供してくれた	1□	2□	3□	4□	5□
2) 自主的に学ぶことができるように刺激を与えてくれた	1□	2□	3□	4□	5□
3) 自分のレベル・経験・能力に応じて自主性を尊重してくれた	1□	2□	3□	4□	5□
4) 時間のやりくりをして、教育と診療のための時間を別々に作っている	1□	2□	3□	4□	5□
5) (良いことや悪いことも含めて)定期的なフィードバックをおこなってくれた	1□	2□	3□	4□	5□
6) 研修期間の間に身につけるべき知識や行うべき事を、明確に示してくれた	1□	2□	3□	4□	5□
7) 自分のニーズ(自分の経験、能力、興味等)に応じて、教育内容を変更してくれた	1□	2□	3□	4□	5□
8) 学習を促すような質問を投げかけてくれた(問題点を明らかにさせる質問、調べるきっかけとなる質問、哲学的な質問、熟考させる質問など)	1□	2□	3□	4□	5□
9) 意見、助言を述べたり医療行為を行う際に、わかりやすい言葉で説明したり明確な理由を示してくれた	1□	2□	3□	4□	5□
10) 研修の異なるセッティング(外来、入院、検査室等)に合わせて、それぞれの状況で必要な教育をおこなってくれた	1□	2□	3□	4□	5□
11) 臨床のスキルや手技(問診、診断、検査、処置等)について指導してくれた	1□	2□	3□	4□	5□
12) エビデンスや診療ガイドラインを教育に取り入れていた	1□	2□	3□	4□	5□
13) 診断のスキルを教えてくれた(診断推論、検査の選択や解釈など)	1□	2□	3□	4□	5□
14) 患者、家族とのコミュニケーションのために役に立つ技術について教えてくれた	1□	2□	3□	4□	5□
15) 医療費と適切な医療についての考え方を教えてくれた(資源の利用など)	1□	2□	3□	4□	5□

7. 日頃の診療に必要な情報を得るために参考としている情報源について、下記の質問に回答してください。

(ウ) どのような情報を利用していますか？あなたが用いている全ての情報を100%として、以下の項目のうち、当てはまる情報源のおおよその利用割合を記載してください。利用していない場合には、0%と記載するか、何も記載しないでください（複数回答可）。

(注)回答時間の節約のために、全てのパーセントの合計が正確に100%になる必要はありませんが、だいたい100%前後になるように記載してください。

指導医を含めた上級医からの話	_____	%
同僚研修医の話	_____	%
コメディカルの話	_____	%
マニュアル本(ワシントンマニュアルや有名病院の研修マニュアル、臨床医マニュアル、今日の治療指針など)	_____	%
教科書(ハリソン内科学や朝倉内科学などの成書)	_____	%
原著論文	_____	%
総説論文(UpToDateや商業誌を含む)	_____	%
ガイドライン	_____	%
カンファレンス(院内)	_____	%
講演会や学会(院外)	_____	%
その他(具体的に記載してください)	_____	%
_____	_____	%
_____	_____	%
_____	_____	%
_____	_____	%

(エ) 上記の中で身近な人の話以外の情報、つまり文献や資料などのうち、どの程度を電子的媒体(パソコン、インターネット、CD、DVD、Palm、ポケットPCなど)の形で利用されますか？おおよその割合をパーセントでお答え下さい。なお電子ファイルを最終的に紙に印刷して利用する場合も電子的媒体と考えてください。

全体の %を電子的媒体の形で利用する。

8. 現在あなたが属している施設の学習環境やあなた自身の学習態度について、あなたが現在この調査票を記入している病院での研修中のことを振り返り、各項目の最も当てはまる評価を一つだけ選んで、✓印をつけてください。

	まったく そう 思わない	やや そう 思わない	どちら でも ない	やや そう 思う	とても そう 思う
1) カンファレンスによく参加した	1□	2□	3□	4□	5□
2) レクチャー、勉強会によく参加した	1□	2□	3□	4□	5□
3) カンファレンスに主体的に参加し	1□	2□	3□	4□	5□
4) レクチャー、勉強会に主体的に参加した。	1□	2□	3□	4□	5□
5) 自分が受け持った症例について、一例ずつ検討し合うオフィシャルな場(カンファレンスなど)があった	1□	2□	3□	4□	5□
6) カンファレンス中あるいは後にはフィードバックがあった	1□	2□	3□	4□	5□
7) 経験した症例などで、分からないことはその日のうちに調べた	1□	2□	3□	4□	5□
8) 経験した症例などで、分からないことは自分で調べた	1□	2□	3□	4□	5□
9) 経験した症例などで、分からないことは指導医・同僚に聞いた。	1□	2□	3□	4□	5□
10) 文献検索をよく行った	1□	2□	3□	4□	5□
11) 自己学習に当てられる時間があった	1□	2□	3□	4□	5□
12) 共用の学習資料は豊富だった	1□	2□	3□	4□	5□
13) 文献にはアクセスしやすい環境だった	1□	2□	3□	4□	5□

9. 過去1週間の心の健康について、各項目の最も当てはまる選択肢を一つだけ選んで、✓印をつけてください。

	ほとんど ない (1日未 満)	たま に (1~2日)	とき ど き (3~4日)	ほと んど いつも (5~7日)
1) 憂うつだった	0□	1□	2□	3□
2) 何をやるのも面倒だった	0□	1□	2□	3□
3) なかなか眠れなかった	0□	1□	2□	3□
4) 幸せだった	0□	1□	2□	3□
5) 一人ぼっちで寂しかった	0□	1□	2□	3□
6) 皆がよそよそしいと思った	0□	1□	2□	3□
7) 人生が楽しかった	0□	1□	2□	3□
8) 悲しいと感じた	0□	1□	2□	3□
9) 皆が自分を嫌っていると感じた	0□	1□	2□	3□

10) あまりやる気が出なかった 0□ 1□ 2□ 3□

10. **過去1カ月間**の夜間の当直回数は何回でしたか？当直が無かった場合は0回と記載してください。

過去1カ月間の夜間の当直回数 回

11. **過去1ヶ月間**において、時間外勤務も含めた**1週間**の平均的な労働時間は何時間ですか？

時間外勤務も含めた**1週間**の平均的な労働時間週平均 時間

12. 当直の日の夜間の**平均の睡眠時間**はどのくらいですか？寝床（ベッド、布団）について休むことのできる時間を睡眠時間として回答してください。全く眠れない場合は**0時間0分**と記載してください。

睡眠時間 1日平均 約 時間 分

13. **過去1カ月間**において、寝床についてから眠るまで**平均**どれくらい時間を要しましたか。当直のない日の場合(普段の自宅での睡眠)について回答してください。

約 分

14. **過去1カ月間**において、実際の睡眠時間は**平均**すると何時間くらいでしたか。実際の睡眠時間とは寝床（ベッド、布団）についてから寝床から出る時間から、寝付くまでにかかった時間や途中で目が覚めて起きていた時間、目が覚めてから寝床から出るまでの時間を除いた時間の合計です。当直のない日の場合(普段の自宅での睡眠)について回答してください。

睡眠時間 1日平均 約 時間 分

15. **過去1カ月間**において、寝付くまでにかかった時間や途中で目が覚めて起きていた時間も含めて、寝床（ベッド、布団）についてから寝床から出るまでの時間は**平均**するとどのくらいでしたか？当直のない日の場合(普段の自宅での睡眠)について回答してください。

注) 質問 14 で回答した時間よりも短くならないように注意して回答してください。

睡眠時間 1日平均 約 時間 分

16. **過去1カ月間**において、どれくらいの頻度で、以下の理由のために睡眠が困難でしたか。各項目毎に、最もあてはまるものを一つだけ選んで、✓印をつけてください。

	なし	1週間に1回未満	1週間に1〜2回	1週間に3回以上
1) 寝床についてから 30 分以内に眠ることができなかったから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
2) 夜間または早朝に途中で起きたから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
3) トイレに起きたから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
4) 息苦しかったから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
5) 咳が出たり、大きないびきをかいたから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
6) ひどく寒く感じたから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
7) ひどく暑く感じたから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
8) 悪い夢をみたから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4
9) 痛みがあったから	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4

17. 以下はあなたが働く中で、日々どのように感じているかについての質問です。最もあてはまるものを一つだけ選んで、✓印をつけてください。

	まったくそうは 思わない	ややそう思わない	どちらでもない	ややそう思う	非常にそう思う
1) 今の臨床の仕事は個人的にやりがいがあると感じている	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
2) おおむね私は仕事を楽しんでいる	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
3) おおむね私は現在の仕事の状況に満足している。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
4) 現在の仕事の状況は私の欲求不満の大きな原因になっている	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
5) 現在の職場の仕事は自分の期待していたものとは異なる。	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

18. 仕事への熱意について、各項目の最も当てはまる評価に✓をつけてください。

	いつも もある	しばしば ある	時々 ある	まれに ある	まった くない
1) 「こんな仕事、もうやめた」と思うことがある	5□	4□	3□	2□	1□
2) 我を忘れるほど仕事に熱中することがある	5□	4□	3□	2□	1□
3) こまごまと気配りをするのが面倒に感じることもある	5□	4□	3□	2□	1□
4) この仕事は私の性分に合っていると思うことがある	5□	4□	3□	2□	1□
5) 同僚や患者の顔を見るのもいやになることがある	5□	4□	3□	2□	1□
6) 自分の仕事がつまらなく思えて仕方がないことがある	5□	4□	3□	2□	1□
7) 一日の仕事が終わると「やっと終わった」と感じることもある	5□	4□	3□	2□	1□
8) 出勤前、職場に出るのが嫌になって、家にいたいと思うことがある	5□	4□	3□	2□	1□
9) 仕事を終えて、今日は気持ちのよい日だったと思うことがある	5□	4□	3□	2□	1□
10) 同僚や患者と、何も話したくなくなることもある	5□	4□	3□	2□	1□
11) 仕事の結果はどうでもよいと思うことがある	5□	4□	3□	2□	1□
12) 仕事のために心にゆとりがなくなったと感じることがある	5□	4□	3□	2□	1□
13) 今の仕事に、心から喜びを感じることもある	5□	4□	3□	2□	1□
14) 今の仕事に、私にとってあまり意味がないと思うことがある	5□	4□	3□	2□	1□
15) 仕事が楽しくて、知らないうちに時間が過ぎることがある	5□	4□	3□	2□	1□
16) 体も気持ちも疲れ果てたと思うことがある	5□	4□	3□	2□	1□
17) 我ながら、仕事をうまくやり終えたと思うことがある	5□	4□	3□	2□	1□

19. 卒後 3 年目以降のキャリアパスについておたずねします。

(オ) あなたは卒後 10 年目以内に大学院に入りたいと思いますか？最もあてはまるものを一つだけ選択して、✓印をつけてください。

- 1 はい—大学院（臨床研究）
- 2 はい—大学院（基礎研究）
- 3 いいえ

(カ) (ア) で 1 もしくは 2 と回答したかたにおたずねします。大学院に入るとすれば、どの時期ですか？最もあてはまるものを一つだけ選択して、✓印をつけてください。

- 1 初期研修終了後

(研究計画書 資料2)

- 2 専門医取得後
- 3 その他（具体的な時期までは考えていないなど）

(キ) (ア)で「はい」と回答したかたにおたずねします。大学院に入りたいと思う理由は何ですか？以下のうち、**当てはまるものすべての項目に✓印をつけてください（複数回答可）。**

- 1 研究そのものに興味があるから
- 2 博士号の学位を取りたいから
- 3 大学院に入った方が今後の身分が保障される
- 4 大学院に入らないと教授になれない
- 5 臨床がいやだから

(ク) (ア)で「いいえ」と回答したかたにおたずねします。大学院に入ろうと思わない理由は何ですか？以下のうち、**当てはまるものすべての項目に✓印をつけてください（複数回答可）。**

- 1 臨床以外には興味が無いから
- 2 基礎研究をやらされるから
- 3 現在の制度では大学院で臨床研究ができないから
- 4 自分が望まない研究以外の業務や人事を強要されるのが嫌だから

(ケ) 大学院で自分の好きな研究が出来ると仮定した場合、どのような研究を行いたいですか？以下のうち、**当てはまるものすべての項目に✓印をつけてください（複数回答可）。**

- 1 病気の発症と関連する要因を探索する研究
- 2 疾患の新たな診断方法を開発したり、臨床現場での有用性を検証したりする研究
- 3 疾患の新たな治療方法を開発する研究
- 4 治療法の臨床的な有用性を検証する研究
- 5 医療の質を測定したり改善したりする研究
- 6 ITやコンピュータ等を用いた医療情報についての研究
- 7 患者心理に関する研究
- 8 患者や家族とのコミュニケーションに関する研究
- 9 医療倫理についての研究
- 10 医療経済や医療政策に関わる研究
- 11 医学教育にかかわる研究
- 12 一般住民の健康を向上させる研究（予防医学についての研究）

20. 以下の質問は、患者から受けるバイオレンスについての質問です。各質問毎に患者と家族に分けて、該当する時期をチェックしてください。異なる複数回の時期に経験した場合には、二つ以上の選択肢に✓を入れてください。該当しない場合には、「ない」に✓を入れるか、何も印をつけなくてください。✓がつけられていない場合には、「ない」とみなします。

(注1) 明らかに意識障害のある患者の行為を除くこととします。

(注2) 以下の「暴力」には、殴る、蹴る、押す、引っ張る、噛む、つばをかける、引っ掻く、つねる、ものを投げる、ものを振り回す、首をしめる、殺すなどの行為を含みます

① 身体的暴力について

		ない	半年前までの間 1年前	3ヶ月前までの間 半年前	1ヶ月前までの間 3ヶ月前	1ヶ月以内
1) 患者に暴力を振るわれた	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□
2) 暴力を振るわれそうになって未遂に終わった	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□

② 器物破損について

		ない	半年前までの間 1年前	3ヶ月前までの間 半年前	1ヶ月前までの間 3ヶ月前	1ヶ月以内
1) 過失ではなく、故意に病院の建物や備品を壊された	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□
2) 過失ではなく、故意にあなたの持ち物を壊された	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□
3) 実際には壊されていないが、(机をたたいたり、壁やドアを蹴ったり、壁を殴ったりされるなどして)病院の建物や備品、あなたの持ち物を壊されそうになった	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□

③ 言葉の暴力について

		ない	半年前までの間 1年前	3ヶ月前までの間 半年前	1ヶ月前までの間 3ヶ月前	1ヶ月以内	
1)	警察や権力者(政治家や病院長など)への届出、危害をくわえることを交換条件にして、金銭に関わる要求(慰謝料等直接的な金銭の要求、治療費の免除)を要求された (例:「慰謝料を払わないと、警察に届けるぞ。」「治療費をタダにしないと、政治家に言うぞ」など)	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□	
2)	自分の身体に危害をくわえることをほのめかされた	患者	1□	2□	3□	4□	5□
		家族	1□	2□	3□	4□	5□
3)	自分の身体や病院に直接危害を加える内容ではなかったが、知り合いの権力者を持ちだされておどされた (例:「政治家が知り合いにいるんだけど」「暴力団に言いますよ」「院長に言うぞ」)	患者	1□	2□	3□	4□	5□
		家族	1□	2□	3□	4□	5□
4)	自分の身体や病院に直接危害を加える内容ではなかったが、乱暴な言葉や大きな声で、治療内容についての不満について責められた(例:「ぜんぜん良くならないじゃないか、いったいどうなってるんだ!」)	患者	1□	2□	3□	4□	5□
		家族	1□	2□	3□	4□	5□
5)	身体的特徴や人種などにかかわる、軽蔑的発言をされた	患者	1□	2□	3□	4□	5□
		家族	1□	2□	3□	4□	5□
6)	業務が混乱するほど、大声でわめきちらされた。	患者	1□	2□	3□	4□	5□
		家族	1□	2□	3□	4□	5□

④ その他

		ない	半年前までの間 1年前～	3ヶ月前までの間 半年前～	1ヶ月前までの間 3ヶ月前～	1ヶ月以内
1) 「セクシャル・ハラスメント」と思われる行為を受けた(身体に触れられたり、わいせつな言葉をかけられるなど)	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□
2) 脅しのメールや手紙を送りつけられた	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□
3) ストーカー行為をされた	患者	1□	2□	3□	4□	5□
	家族	1□	2□	3□	4□	5□

- ⑤ 上記の設問①～④のいずれかで1回以上経験「あり」と答えられた方にお聞きします。あなたの経験した患者による不快な行為の何%が明らかに不当であると感じましたか。例えば、患者による不快な行為を10回経験し、そのうちの3回について不当であると感じた場合には、「30%」と記載してください。

約 %

21. 最後に個人的な背景についておたずねします。

(コ) 同居している家族はいますか？当てはまる項目を一つだけ選択して、✓印をつけてください。

- 1 いる
2 いない

(サ) 同居している家族がいる場合におたずねします。どなたと同居していますか？当てはまる項目全てに✓印をつけてください(複数回答可、ただし3-5に該当する場合は、いずれか一つを選択してください)。

- 1 配偶者
2 親(義理の両親を含む)

(研究計画書 資料2)

- 3 子供 (一人)
- 4 子供 (二人)
- 5 子供 (三人以上)

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

研究協力報告書

薬剤師主導の臨床研究モデルプロジェクト

研究協力者	佐藤 恵子	京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野	
分担研究者	渡部 一宏	財団法人 聖路加国際病院	薬剤部
研究協力者	笠原 淳子	ハロー薬局南浦和店	管理薬剤師
研究協力者	大西 良浩	NPO 法人健康医療評価研究機構	部長
研究協力者	網岡 克雄	金城学院大学 薬学部	准教授
研究協力者	関根 祐子	東京大学医学部附属病院 薬剤部	主任
研究協力者	山崎 新	京都大学大学院医学研究科 医療疫学分野	准教授

研究要旨

近年、医療人としての薬剤師に対する社会の期待が高まる中、薬剤師主導型の研究から生まれるエビデンスの必要性も増加している。薬剤師が臨床研究に関するセミナーを受講する機会は徐々に増加しているが、実際に臨床研究を行うのは容易ではない。本研究では、臨床研究基礎セミナーで得た知識をもとに、臨床研究を行うためのスキルや経験の獲得および薬剤師間のネットワーク形成を目的として、薬剤師主導型の臨床研究を計画した。

A. 研究目的

従来、複数の薬局の薬剤師が臨床研究を行う場合には、地域の薬剤師会での調剤薬局、経営母体が同一の調剤薬局、あるいは病院の薬剤部とその周辺の調剤薬局といったケースが多かった(図 1)。これは、研究を行う薬剤師同士でのコミュニケーションのとりやすさや、研究で使用するコンピューターおよびソフト(例:調剤報酬算出)が共通であるなど、研究実施上のメリットが多いグループである。

しかし、このようなグループに参加することが出来ない環境にある薬局の薬剤師が、臨床研究を実施するのは、研究の資金や労力の負担、研究に必要な症例数の確保などの点から困難な場合が多い。さらに臨床研究実施には、座学で得られる知識以外に、

プロジェクト・マネジメント、調査票の設計、データ収集の技術などのスキルやノウハウなども必要であり、経験のない薬剤師の臨床研究実施を困難にしている。

そこで、本研究班では、臨床研究基礎セミナーに参加した調剤薬局薬剤師が臨床研究の経験をすること、および臨床研究を中心としたネットワーク形成を目的としたモデルプロジェクトを計画したので報告する。

B. 研究方法

モデルプロジェクトでは、調剤薬局薬剤師が主体となる臨床研究(以下、モデルプロジェクト研究)を実施する。モデルプロジェクト研究のコンセプトは、「調剤薬局の薬剤師の視点で、日常業務の中から生まれるリサーチ・クエスチョン(以下、RQ)を科学的

に検証する」とした。

モデルプロジェクト研究のRQは、本研究班メンバー間でのディスカッションから、降圧薬のアドヒアランスに関連するテーマとした。モデルプロジェクト研究の目的は下記のとおりである。

- (1) 降圧薬で治療中の高血圧患者におけるアドヒアランス調査のための自記式調査票(以下、調査票)設計
- (2) 降圧薬の服薬アドヒアランスと関連する要因の探索

平成18年度または平成19年度に実施した臨床研究基礎セミナーに参加した調剤薬局薬剤師が、研究計画作成の段階でディスカッションに参加、あるいは質問紙法とインタビュー調査によるパイロット調査に参加した。パイロット調査後に、薬剤師に調査を経験した感想やコメントを聴取した。パイロット調査実施にあたり、倫理審査は行わなかったが、疫学研究に関する倫理指針に準拠し、対象者の人権など倫理的な側面についての配慮を十分に考慮した。研究への参加にあたっては、説明文書による説明後、対象者から書面による同意を得て、無記名で調査票を回収した。モデルプロジェクト研究の進行とネットワーク形成の流れを図2に示す。

C. 研究結果

2007年10月より研究計画案作成に着手し、2008年1-2月にモデルプロジェクト研究のパイロット調査を実施した。パイロット調査は、埼玉県内の調剤薬局で10名の高血圧患者に対して実施した。研究計画案作成段階でディスカッションに参加した薬剤師と、モデルプロジェクト研究を実施した

薬剤師は異なっていた。パイロット調査では、調剤薬局薬剤師が、研究計画書について、実施可能な患者の組入れ・除外基準、調査手順および調査票の項目や語句への提案を行った。そして対象患者リストの作成、電話による患者への調査依頼、文書による調査の説明や同意の取得を行った。さらに、登録票への患者情報の記入や、調査票の配布・回収、電子血圧計による血圧測定を担当し、調査票記入後の患者インタビューも研究協力者と分担して実施した。

パイロット調査は、男性3名、女性7名の計10名の患者に対して行った。パイロット調査の結果については現在解析中である。

パイロット調査終了後に、薬剤師2名より、「日常業務での疑問点を、実際にデータを得て検証することの難しさを知った」「研究計画や調査票設計に関り、研究の方法や手順への理解が深まった」「対象者をリクルートする時間帯など、改善する余地があった」「調査という改まった場で、日常の服薬指導時には得られなかった情報が得られた」「研究をやるのはいろいろな意味で難しいが、やる気で解決できるかもしれない」という感想・コメントを得た。

D. 考察

今年度実施したモデルプロジェクト研究のパイロット調査を通じて、研究班主催のセミナーに参加した薬剤師に、実際に臨床研究の計画、実施の機会を提供した。その結果、薬剤師は、研究実施のために必要な知識やスキルをより具体的に把握し、実務的な部分での反省点・問題点などを抽出した。さらに、調査という場で改めて患者と向き合い、日頃の服薬指導の場では得て

いなかった情報を得て、日常業務へのフィードバックが可能となった。

臨床研究基礎セミナーで実施したアンケートでは、半数以上の薬剤師が「日常の疑問を解決したい」を臨床研究に関心のある理由として挙げている。したがって、薬剤師の臨床研究へのモチベーションを高めるためには、業務へのフィードバックが可能で、日常業務の効率化または患者満足度の向上につながる RQ を設定することが重要と考えられる。

薬剤師が主体となる臨床研究は、医師とは異なる役割、对患者関係から得られる薬物治療に関するエビデンスの形成が期待される。さらに、臨床研究を軸としたネットワークの形成により、多くの被験者を要する研究や腹水の疾患領域に及ぶ研究、さらに薬局の構造的特徴や処方箋応需状況により研究内での役割分担などが可能となると考えられる。

しかし一方で、調剤薬局薬剤師が臨床研究を実施するには、診療記録などの患者の臨床的データの入手が困難である点から、さまざまな限界が考えられる。

さらに今後の検討課題として、資金・研究時間の確保、日常業務への影響、倫理的配慮、研究をマネジメントする人材の育成、臨床研究に関する継続的教育・研修の場の確保など、様々な検討課題がある。

E. 結論

今後、本年度に得られた知見と検討課題を踏まえて、モデルプロジェクトを遂行する予定である。

F. 研究発表

特になし

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

特になし